



## 消防団員図上研修について



防災図上訓練指導員  
中村 敏一

私が平成19年の現職時（川崎市消防局）、消防科学総合センターの図上訓練指導員養成研修を受講し、その後、現在まで全国の行政職員や地域の住民を対象に各地域で実施してきました。

今回、日本消防協会の依頼で、2014年9月に、愛知県消防学校消防団員教育指揮幹部科で災害対応図上訓練DIGを実施しましたので、ご紹介させていただきます。

### 1 はじめに

消防団の訓練には、実技訓練としてポンプ操法や訓練礼式、火災防御訓練などの実動訓練がありますが、別に会議室などの机上で実施する図上訓練があります。

図上訓練には、状況予測訓練、災害図上訓練DIG、シュミレーション訓練、避難所運営ゲームHUGなどがあります。

状況予測訓練は、一定の条件を示されたなかで、どのような対応を個人や組織で対応するかを検討するもので、イメージトレーニング法とも言います。DIGは、地域の地図を使用して、地域の弱さ、強さを理解して災害発生時の対応を検討します。HUGは、避難所が災害発生時にどのようなになるか疑似体験するものです。シュミレーション訓練は、災害発生時のいろいろな状況を訓練者に付与し災害対策本部が行う行動を机上で実施する訓練です。

### 2 災害図上訓練DIGとは

この手法は、住民やボランティアを含んだ地域防災のあり方を探っていた三重県消防防災課（当時）の平野晶氏と、防衛研究所で災害救援を研究していた小村隆史氏（現常葉大学社会環境学部准教授）の二人が中心となり、自衛隊の指揮所演習で使う地図と透明シートの方式を活用して編み出したものです。

DIGは、災害をあらわす英語のDisaster（ディザスター）という単語、想像力をあらわすImagination（イマジネーション）とGame（ゲーム）のそれぞれの単語の頭文字をとって名付けられたもので、英単語のDig（動詞）には、「掘り起こす、探究する、理解する」といった意味がありますので、「防災意識を掘り返す」、「地域を探究する」、「災害を理解する」といった意味が込められています。

このDIGを実施することで得られる防災上の効果として、①地域の強さ、弱さを理解することができる（地域の防災力を理解し、災害に備える。）。②出合いの場ができ、顔の見える関係づくりができる（地域コミュニティの醸成、防災ネットワークの推進につながる。）。③参加者同士で情報を共有することができるので、共通の認識を持つことができる（災害に対して同じイメージ・価値観をもてる。）。ということが挙げられます。

D I Gの対象者は、一般住民を対象として、自治会や自主防災会、商店会、また会社など、どのような集まりでも実施でき、さらに、行政職員や消防関係者、医療関係者や学生（児童・生徒）などの組織等、誰でも実施することができます。

D I Gは、どのように実施するかですが、地域の大きな地図（1/5000や1/10,000）にビニールシートをかぶせ、参加者は地図を囲み、地図にマジックで鉄道や道路（広い道路・狭い道路）、水路や海岸線を塗り、カラーシールで災害時に役立つ場所や官公署・医療機関、危険物施設や危険箇所を落としていきます。

そして、自分の地域を理解し、地域におこる被害を推測します。推測した被害が発生した際に、どのように対応するのか、また、平時から何をしておかなければいけないかを考え、グループ内で議論・とりまとめを行い、グループ毎に発表をします。

### 3 愛知県研修

今回のD I G演習実施の目的は、受講者が地域に戻った際に、地域の防災力の向上のために、地域住民に対してD I Gを実施できることを目的として実施しました。

愛知県の豊田市や岡崎市など各地域からの消防団員が集まりましたから、班編成については、出場地域が近い団や地域の情勢が似ている地域をまとめて7班編成で実施し、D I G実施にあたり重要なファクターの地図については、仮想地図でなく、より臨場感がある消防団出場区域の地図を使用し実施しました。

タイムスケジュールは、20分で説明講

義、100分で被害想定や取り組むべき課題の検討・発表、20分でまとめ・地元に戻ってD I Gを実施するにあたって等で140分の時間を計画しました。

消防団の受講者は、防災意識が高く、地域の強さや弱さ、特に弱さについては街の発展する以前の地勢についても把握しており、また、地名の由来などからも考えて液状化などの被害想定が適切で活発なグループ検討を実施しました。

今回の研修では、7つの地域で実施したことから各地域の状況についても知ることができ情報の共有も図られたものと思われます。

また、2時間程度の研修でしたが、消防団員だけでしたから理解度が早くスムーズに実施できましたが、地元で住民を対象とするD I Gでは、3時間程度の時間をかけて実施すると理解度が図れると思います。



会場レイアウトの状況



発生する被害の検討